

議 事 録

日 時	2024年 1月30日 15:00～16:00
作成者	鈴木
場 所	基礎医学実習室

会議名	令和5年度 第2回 学校関係者評価委員会	
出席者 (敬称略)	外部委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林 弘康 (東京都理学療法士協会 相談役) ・ 三沢 幸史 (東京都作業療法士協会 副会長) ・ 田中 匠作 (あい介護老人保健施設 作業療法士主任) ・ 関 雅彦 (板橋ロイヤルケアセンター リハ科係長) ・ 横山 浩康 (熊谷総合病院 リハ科 課長) ・ 下河辺 雅也 (山田記念病院 リハ科 技師長)
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草野 修輔 (学校長) 林 正志 (副校長) 石垣 栄司 (教務部長) 中嶋 裕之 (事務部長) 阿部 靖 (PT学科統括学科長) 深瀬 勝久 (OT学科統括学科長) 手塚 雅之 (OT学科昼間部学科長) 松生 容一 (OT学科夜間部学科長) 黒木 光 (PT学科昼間部学科長) 土手 延恭 (PT学科夜間部学科長) 鈴木 達也 (事務局 課長代理) 樋口 豊朗 (事務局 課長代理)
	欠 席	大塚俊平 (錦クリニック)

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
------	--

議 事

1. 学校長挨拶

冒頭に草野校長より、委員会開始阿にあたり挨拶があった。

2. 令和5年度 中退率・募集の最終見通し

中嶋事務部長より、令和5年度の募集最終見通しについて説明があった。

3. 令和5年度 取り組み重点テーマ

「中退率低減の取り組み 低学力者に対する対応について」

石垣教務部長より、今年度の中退率低下の取り組みについて説明があった。

教務部会と中退率改善部会が学科と協力しながら中退率の低減と低学力者対応をしている。

今年度の対応

- ・ 低学力者に対する対応として、解剖学と生理学を中心とした補講を全17回実施した。
- 課題として、低学力者の参加増や学生への周知方法、今後のカリキュラムに組み込むべきなどの意見があがっており、中退率改善部会と教務部会で今後の対応を検討している。
- ・ 学習習慣づけの取り組みとして、デジタル教育アプリにて授業の復習課題を実施している。

- ・中退率の取り組みとして、中退率の高い1年生で授業を欠席している学生に対し、欠席当日に電話で出席を即している。
- ・特別再試験の結果が不合格となった学生に対し、補講や課題を実施して知識の定着に勤めている。

学生の現状

- ・低学力者は高校の時から出席率が低い傾向にある。
- ・勉強をする習慣がないまま入学するケースがある。
- ・勉強の仕方が分からない。

質疑応答

Q学校に来られない学生は、来ること自体が障壁となっているのか。そのような学生の知識の定着について。

A現在の学生の特徴として、コロナ禍に高校時代を過ごしており、ZOOMやオンデマンド授業が当たり前の学生ばかりである。そのような事情が学生の欠席に繋がっている可能性はある。

出席が出来ず欠席超過した学生に対して面談を行っている段階だが、課題に関しては対応している印象を受けているやればできるのに来ない学生がいる。

Q低学力者の退学率はどのくらいなのか。

A低学力者が退学するケースは多いが、中にはスイッチが入ると延びる学生もいる。P T O Tの仕事の楽しさややりがいを伝え、早期にやる気を起こさせる取り組みが重要と考えている。

4. その他

- ・マーケットの動きと昼間部の方向性について

中嶋事務部長より、首都圏の各養成校の定員充足、卒業生数、中退率等の現状について説明があった。

意見

- ・卒業後のフォロー体制の構築を今後進めてはどうか。P T O T協会も今後、協会として臨床家の教育改革に取り組んでいる。
- ・今後の人口減により医療介護の人員確保に危機感を持っている中、P T O Tがより良いサービスを提供するようには、学校・病院・協会が協力し合う必要がある。
- ・今後選ばれる学校となるため、リモート授業を積極的に取り入れてはどうか。
- ・G I G Aスクール構想の中で学んできた学生が入学してくる。今後はオンデマンド授業等に取り組んでいく必要がある。

次回会議予定： 令和6年7月上旬